

| 第2次横浜市大都市自治研究会（第2回） 会議録 | |
|-------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日 時 | 平成26年1月27日（月）午前10時～午前11時30分 |
| 開催場所 | 市庁舎2階 政策局会議室 |
| 出席者 | 辻座長、大杉副座長、伊藤委員、薄井委員、沼尾委員 |
| 欠席者 | 高橋委員 |
| 開催形態 | 公開（傍聴0人、報道0社） |
| 議 題 等 | 1 開会 2 資料説明 3 意見交換 4 閉 会 |
| 決定事項 | 次回研究会は、国政の動向等を踏まえて別途開催日を決定し、引き続き、特別自治市創設に向けた区のあり方、関連法令改正への対応等について議論する。 |
| 議事要旨 | 1 開会 2 資料説明 事務局から会議資料の説明が行われた。 3 意見交換 委員の意見交換が行われた。（主な発言は、下記のとおり。） 4 閉 会 |
| 主な発言 | |
| （伊藤委員） | 地方自治法改正案等の検討も進められているが、庁内に設置した関連区局長プロジェクトでは、この動向を踏まえて取りまとめを行うのか。 |
| （事務局） | 現在、特別自治市実現前の段階でもできることはやっていくという方針を前提に検討を進めている。 地方自治法等の改正に関しては、全容を見極めた上で今後の対応を検討していく必要がある。 |
| （薄井委員） | 区や地域は、実態としてどのようなイメージになるのか。 |
| （事務局） | 本庁に機能を集中させた方が効率的・効果的な業務は本庁で行う一方、相談窓口・協働などの機能は区役所に拡充した上で、区レベルでも②の区政に参加できる場等をつくって住民自治機能を強化していこうという考えを示している。 |
| （薄井委員） | 区民の視点で区政に参加する場に、何らかの決定権のようなものはあるのか。 |
| （事務局） | 区民の視点で区政に参加する場は、広聴機能というか住民参画をいかに高めていくかという視点で、決定権は、③の区民の代表が区政を民主的にチェックする機能が持つという区分けである。 |
| （沼尾委員） | 全市一体でやっていくことは、規模の経済性と、集約化したり配分をうまく調整したりしながら、全市で効率化を図るところに意味があると思う。 他方で、区単位でやっていく都市内分権は、そうした規模の経済性とは別の、区や地域の中で、異なる分野の間で調整をするという、いわば範囲の経済性とい |

| | |
|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | <p>うべき効率化の意味があると思う。さらに、地域のニーズを見ながら個々の施策や事務事業を、地域という軸で横串を刺すことで効率化が図られるメリットがある。</p> <p>規模の経済性を生かしつつ、範囲の経済性をどう組み合わせるかが、効率的・効果的行財政運営には非常に重要。</p> <p>予算等を区で透明性を持って民主的に決定できるスキームについて、どのように考えているのか。</p> |
| (事務局) | <p>具体的にはこれから検討するが、平成6年の機構改革以降、市民の方が地域で直面する問題は、区で解決できるような体制を整備してきた。区役所は総合行政機関的な体制になっている。</p> <p>予算については、個性ある区づくり推進費という予算があり、そのうち、区が使途を決定できる自主企画事業費は、1区1億2,000万円程度ある。</p> |
| (沼尾委員) | <p>区の中で横串をどう刺していくかというとき、予算の再配分や決定のあり方を区の中で決定する仕組みをつくることは、財政民主主義実現という意味でとても重要。</p> |
| (大杉副座長) | <p>沼尾委員がおっしゃった予算の話や横串の話などを考えていく上では、全市的計画と関連させた中長期的計画を、区別に策定することも必要。これは、行政の権限だけでなく、議会権限の分散にも関連してくる問題。</p> <p>また、区ごとに計画を策定し、予算に結び付けていく場合、区単位での仕組み、手続きなども、大きな論点。さらに、地域の特性も考えるべき部分で判断ができるような区の体制も考えていく必要がある。</p> |
| (辻座長) | <p>②と③は、それぞれ意識や正当性も異なるため、全く別物として制度設計していかないと、うまくいかないのではないかと。②は、各区の実態に応じてかなり多様に組むことが可能だが、③は一律に設計する必要があるのではないかと。</p> <p>特別自治市の場合、行政区を選択するという制度設計については、国等においても、コンセンサスができていていると思う。</p> <p>②の制度設計に関し、委員が長期化する傾向も考えられるため、任期や再任制度についても検討しておく必要がある。</p> <p>指定都市は指定都市の行政経験を踏まえた上で、どうしたら生産的に住民自治を強化できるのかをしっかりと検討していく必要があると思う。</p> |
| (事務局) | <p>本日の先生方のご意見も踏まえて、取りまとめに向けた検討を進めていきたい。</p> |
| 資料 | <p>1 次第</p> <p>2 資料（第2次横浜市大都市自治研究会（第2回）会議資料）</p> <p>3 参考資料1（認定こども園記者発表資料）</p> <p>4 参考資料2（特別自治市創設に向けた「区」のあり方《論点整理》）</p> |
| 特記事項 | <p>次回研究会については、国政の動向等を踏まえて別途日程調整の上、開催日を決定する。</p> |

(以 上)